

令和 6 年度 事業報告書 中京いきいき市民活動センター

【指定管理者：特定非営利活動法人 あかしやふれあいネットワーク】

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 12 名（常勤 2 名非常勤 10 名）

【人材育成の取組】

・月に 1 度のミーティングは必ず行い、業務連絡や日々の業務での改善について意見交換をして、従事者全体が内容や状況を共有し、業務が円滑に進み、来館者からの疑問に対する回答が的確になる事や案内等にも話し合います。広報については、担当者とセンターの周知や事業・イベント広報についても細部まで話し合う事で、適切な広報に繋がっています。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
136	143	152	173	140	151	161	151	148	133	156	134

(年間)

1,778 件（前年度比 107%）

イ 利用状況

○ 年間での利用状況について、傾向などを記載してください。

- ・前年度比は 107%と利用件数は増加し、利用料金が改定後、利用時間を短縮して利用されいた団体も時間を通常通りに戻して利用されるようになり、新規の団体や個人での利用も増加しています。
- ・傾向としては、仮予約の導入で月初に貸館申請を来館にて行っていた団体や個人の方もホームページや SNS を利用して仮予約の申請を行われるため、申請での混雑も避けられています。事業でのイベントを行う事で、中京いきいき市民活動センターを知ることができた団体や個人の方も増え、無料で貸出し可能な備品も増やして利用件数の増加に繋がっています。
- ・一度、仮予約を利用した方は継続され、初めて来館される方や連絡してくる方には、便利な予約の方法として伝えるようにしています。
- ・SNS を活用して広報を行う事で、中京いきいき市民活動センターの存在や活動内容を示し、仮予約可能なことや新たに無料で貸出せる備品の案内を館内に掲示して利用者に知っていただけたことは利用増加に繋がっていると思います。

○ 課題や改善が見られた部分があれば記載してください。

- ・建物が古い為、冬の暖房の効き始めが温まらない事を軽減するために電気暖房器具の購入や人気のある卓球台の増台と、調理道具を増やすなど、利用者の声を聞きながら、不足部分を補える取り組みもしました。
- ・エレベーターが無いことで、1 階を誘導するにも、利用者がある場合は、断念してもらうか代案を誘導しなければならないことは大きな課題です。ウ 利用促進に向けた取組

○ センターで取り組まれたことを記載してください。

- ・仮予約システムの導入は月初の申請時の混乱を避けるだけでなく、利用者にとって好評です。SNS での仮予約申請での返信等にも迅速に対応し、予約が入っている場合でも違う日にちや場所を案内しています。

- ・来館者には常に会話や声掛けを心掛けて、交流する事で利用の内容や活動内容を知ることができるので、新たな備品導入や利用しやすい環境づくりができています。多種多様な利用や活動をサポートする事で、利用促進に繋がっています。
- ・今年度から広報担当が「いきいき通信」の作成を行い、見やすい構成や楽しさが伝わり事業担当と情報を共有、相談し合い、分かりやすいデザインを心がけ、活動の魅力や楽しさが伝わるよう、写真選びにこだわったりしました。それぞれの具体的なエピソードを取り入れ、何をしているのか分かりやすくなるようにビジュアルを工夫し、問い合わせの情報についても分かりやすくまとめ、興味を持った人がすぐに連絡出来るように工夫しました。また、スタッフの写真も掲載し、親しみやすさや安心感を持ってもらい、相談しやすい雰囲気作りも行いました。

エ その他

○ サロンについて、利用状況や前年度と比較した増減の分析等を記載してください。

- ・利用状況の前年度比は 105%と増加しています。中京いきいき市民活動センターを知ってもらう事で、イベント情報や多世代交流事業に参加される方が増加しています。逆に多世代交流事業に参加された方が、中京いきいき市民活動センターを知り、友人と貸館利用されたこともあり、相乗効果が見られました。
- ・サロンでの活動状況を SNS 等で知り、協働して取り組みたい方の問い合わせもあり、活動のスタートアップとして多世代交流事業を活用して頂いています。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- SNSをはじめとする広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例について記載してください。
- ・ホームページの改修のポイントとして見た目やコンテンツの改善をしました。視認性を高めるためにフォントや配色を調整し、見やすくスッキリとしたレイアウトに変更しました。スマホやタブレット対応を強化し、どのデバイスでも見やすくし、メニューの配置を分かりやすくすることで、目的のページへすぐにアクセスできるように改善しました。
- ・開催予定表が一目でわかるよう月間スケジュールを作成し情報をわかりやすさを強化しました。イベントのレポートも定期的に作成しコンテンツを増やすことで自然に検索されやすいサイトを目指しています。貸館情報の充実としては施設や会議室の特徴が伝わるように、写真多く掲載し、各会議室の用途や設備が分かるように、情報を整理し見やすくしました。
- ・団体の活動を広めたい発信したいという団体は取材の許可を得た上で、利用時にノックし、写真を撮らせてもらったり内容を聞いたりし SNS 等で団体紹介を行いました。
- ・毎年発行している「いきいき通信」は、広報担当が主になり、事業担当と内容を確認し合っており、関わる者の意見を取り入れ、前回よりも、センターの様々な部分が引出せるよう取り組みました。その結果、一段と良いパンフレットに仕上がりと見られた方からも好評です。また、みんなの意見で作成したパンフレットに係る費用も削減することができました。

○ センターの認知度向上だけでなく、市民活動に関わる様々な情報を工夫して周知された取組があれば記載してください。

- ・当センター近隣にある三条商店街があり、商店街活性のために商店街関係者だけではなく、大学生団体や市民活動を行っている団体とも連携し、毎年七夕祭りを開催されており、その催しに今年度も参加し、当センターのPRを行うとともにオリジナルうちわやパンフレットを配布し、センターの周知を行いました。
- ・今年度も学生ボランティアを募集し、各大学の協力で電子掲示板やチラシを置いて頂き、様々な学校から参加してくれました。花園大学はゼミの時間にボランティアの理論と実践として説明に出向き、学生達を受け入れました。

イ 取組の効果

- アの取組により効果が見られた事例を記載してください（団体の立ち上げや事業の実施につながった など）。
- ・HPやSNS、いきいき通信をリニューアル、改善したことで、登録者数が増加したことや事業やイベントの申込み、事業と一緒にやりたい活動団体、活動を広めたい相談など、広報から当センターに興味や理解を持って繋がられることが増えています。
- ・繋がられた方や当センターの広報を見られた方の感想は見やすいし、様々な事されていて見るのが楽しみと好評です。
- ・パンフレットがより良く見やすくなったことで説明もしやすいし、わかりやすいと満足頂いています。月間スケジュールもわかりやすいと好評です。

(4) 管理運営

- 防火管理者の選定、建築物の保守管理、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務、保安警備業務、植栽等保全業務の実績について、代表的なものを記載し、最後に「等を実施」と記載してください。
- ・防火管理者の選定（中京消防署にも消防計画を提出済）、建築物の保守管理(日常点検等)、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務（日々・空調）、保安警備業務、植栽等保全業務等を実施しました。

(5) その他

- 「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」で実施したものがあれば、その内容を記載してください。
- ・独自の意見箱を設置し、気軽に来館者の意見を取り入れられるよう努めています。その意見の中で、改善すべき点がある事項についてはミーティング等で話し合い、スタッフがその内容(備品の購入や不備の確認)を共有し少しでも改善できるように心掛けています。
- ・周辺学区や周辺で活動されている市民活動団体や福祉施設の方とは常に交流を持ち、イベントや交流会・学習会等に参加し、当センターと共催して事業やイベントを行ったり、お互いの活動内容を知ることによって今後につながるよう努めました。
- ・中京区社会福祉協議会や高齢サポート・西ノ京は、定期的な交流会や意見交換会には参加し、情報交換や連携を持っています。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】SDGs 事業（活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：
①12/14 雑紙ワークショップ(京都大学)
②10/26・12/14・1/25 スマホの相談会ワークショップ(大学生)
③7/20 省エネのコツについて講演会
④8/2 研修会
8/7・8/8・8/9 アイディアを形にするワークショップ(ディープピープル)
⑤4/20・7/6・10/5・12/7 食育ワークショップ(学生団体ボーノ)
⑥10/27 食物アレルギーと防災 講演会(LFA Japan)
⑦7/7・8/17・11/30 ものづくりイベント(京都工芸繊維大学の学生)
⑧5/11・5/18 食べ物の絵 ワorkshop キッズアワード京都へ出展
⑨5/22・5/29・7/26 金継ぎ体験
⑩9/14・3/8 いきセンフェスティバル
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター 会議室・料理室・サロン
- 3 参加人数： ①7名 ②11名 9名 12名 ③5名 ④学生5名 小学生7名
⑤7名 11名 8名 9名 ⑥12名 ⑦32名 11名 13名 ⑧8名
⑨8名 9名 夏休み企画(箸置き)27名 ⑩44名 57名 計312名
- 4 協力団体等：京都大学エコ〜るど京都学生・京都先端科学大学学生・花園大学学生・
NPO 法人ディープピープル・学生団体ボーノ・LFA Japan
・京都工芸繊維大学の学生・学生ボランティア JVO
- 5 予算： 2,852,500円 / 決算： 2,942,718円
- 1 事業内容
○ 事業の内容を具体的に記載してください。
地域住民，市民活動団体，大学生と連携し取り組むSDGsプロジェクトに取り組みました。
いきいき市民活動センターから発信し，人々へのSDGs意識を高め，自分のため将来のためという重要なことを心に響かせて，活動団体と協働で取り組みを企画し，地域の活動の支援とSDGs参加者の意識を高める目的で開催しました。協働する団体は，独自の活動を活かし，得意なことやアイディアを引き出し，センターは，場所・広報・事業のまとめ役を主に行いました。
①京都大学の学生主体で，環境問題に関連するごみの分別をテーマとし，雑紙などを用いて子ども達の意見を聞きながら自分事して考えるワークショップを開催しました。
②現在社会を生きやすくするために，大学生主体で日々のちょっとした悩みを解決できるよう，「スマホのプチお悩み相談会」のワークショップを3回開催しました。
③京都市のエコ学区事業の「2050年CO2ゼロ『どこでもトーク』」に申込み，省エネ・節電についての情報や補助金情報など身近で活用できる講演会を開催し，質疑応答もありました。
④小・中学生向けのワークショップをサポートしてくれる大学生とZOOMによる研修会を開催し，アクティブラーニング方式で問題解決に向けたアイディアを企画提案するワークショップを開催し，出来上がった内容を当センター開催の「いきセンフェスティバル」で発表しました。
⑤学生団体ボーノの企画による，食についてのワークショップを4回開催し，子ども達に食について

- ⑤学生団体ボーノの企画による、食についてのワークショップを4回開催し、子ども達に食について、伝え、理解を深めました。
- ⑥災害時・緊急時こそ、みんなの力が必要で、アレルギーについて知識を深めることで、取り残さないという課題の解決に繋げる講演会を開催しました。当事者だけでなく参加があり、質疑応答もありました。
- ⑦京都工芸繊維大学の学生の企画による、科学に関連する内容のワークショップを3回開催しました。その中には当センターの学生ボランティアの企画と合同で企画も行いました。
- ⑧一社）オーガニックフォーラムジャパンの「キッズアワード京都～ぼくのわたしの大好きな食べ物の絵コンテスト」に参加するために、2日間にかけて子ども達が自由に描き、応募しました。
- ⑨家庭で欠けている食器を持参し、漆を使わない手法で、食器を生き返らせる金継ぎ体験を行いました。夏休みには、子どもや親子対象に、海のごみシーグラス、シー陶器を使って「箸置き」の金継ぎ体験を行いました。
- ⑩SDG s 事業に参加された団体や中京いきセンを行き交う団体で、いきセンフェスティバルを開催しました。上記のワークショップ等でできた作品の展示も行いました。

2 準備段階での工夫

- ・協働団体とは定期的に会議やオンライン会議、メールのやり取りを行い情報交換し、参加者が楽しめる準備や配慮を心がけ開催に向けました。
- ・市民に興味を持たせ参加してもらえるよう、それぞれの団体の特性を前面に打ち出せるよう、広報やチラシ等で示す工夫をしました。
- ・大学生ボランティアも学校に配布したり、学校のサイトに載せてもらったりして他方からの学生が協力してくれ、事前に研修会を行い、学生が気軽に参加できるようにしました。学生はLINEへ繋がってもらい、LINEグループで連絡や日程調整を行い、スムーズに取り組みました。
- ・事前に他の事業の参加者の会話や団体の情報をスタッフで共有しました。
- ・参加された方とは、アンケートだけでなく、気さくに話しかけ、興味や感想など、意見も聞くよう、スタッフが意識し、行いました。また、パンフレットや事業のチラシを置き、質問に随時答えられるよう担当者が張り付きました。来場者の中には、利用したい声も聞け、LINE登録などの誘導も心掛けました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
- ・幅広い層の方に、自分のため将来のためという重要なことを心に響かせて、参加団体との連携を図ります。
- ・協働する団体と情報共有、連携することで、開催する目的ができ、具体的に伝えることが見え、質の良い高い取り組みが期待できます。
- ・参加人数の増加や協働による活動、多種多様なアイディアの取り入れを目的とし、参加者団体が主体の事業となり、自主性を引き出します。
- ・それぞれの意見を取り入れ、地域住民に伝え人々の意識改革と自然にSDG s（環境）の達成に向けて一歩踏み出す取り組みとなり、あらゆるひとを巻き込むことで、将来性のあるまちづくりを目指します。

- ・いきセンフェスティバルでは、当センター利用団体だけでなく、他方面で興味のある方を募り、申込みがあった団体にも参加してもらえました。その1つに舞子をしている方が披露され、薄れつつある京都の文化「舞子」を広め、知ってもらいたいという思いをこの事業で協力することができました。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1) の達成度について自己分析し、記載してください。
- ・子どもから高齢者まで幅広い層の方に参加してもらえる事業となりました。
- ・市民活動団体、大学生、学生団体、の日頃の活動を活かしてSDGsに繋げる内容の事業となり参加者の満足へ繋がりました。参加者からの反応も良く、継続して行って欲しい声や要望などが聞けました。
- ・大学生は、それぞれの学生の考えや行動を活かすため、上手く誘導することで、徐々に意見や行動が芽生え、将来の担い手の支援ができました。参加者に寄り添う事で、多世代との交流や支援が経験でき、自信にも繋がり、社会貢献する良い機会になりました。その後も、他の事業に参加される学生もあり、回数を重ねるごとに成長が感じられました。
- ・参加者の主体性を引き出すために、協働団体と連携し計画・実行できました。
- ・イベントは、継続して欲しい声や参加したい声、年に1回を2回にして欲しい声が聞けています。様々な団体が自主性を持って交流し合え、センターとしてはサポート体制で取り組みました。また参加者に団体を知ってもらえる機会になりました。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
- ・まだまだSDGsへ関心と材料があると思うので、中京いきセンを拠点に活動団体と市民を繋げる内容を模索しSDGsの知識と課題解決に繋げる事業を計画します。そのために、常に情報を取り込み、活動団体と連携をもって進めていきます。
- ・繋がった団体や学生は、継続して連携し、協働で行う取り組む内容を計画していきます。
- ・近年繋がっている、当センターを理解してくれている大学とは、連携し、ボランティアを募っていきます。
- ・また、SDGsについては、従事者が常に外部の情報にアンテナを張り、参加できるイベント等に自ら参加し、自身の知識や見聞をアップデートします。

【事業名】多世代交流事業（活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： ①「いきいき憩いの場」 毎週水曜日 10:30～12:00
②「ふれあい基地」 毎週土曜日 10:30～12:00
③「ふれあい喫茶」 毎週土曜日 13:00～14:30
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数： ①401名（45回） ②395名（40回） ③433名（46回）
- 4 協力団体等： 助産師によるみんなでヨガ・ひなぎくヨガ・ベビーマッサージ（きらきりりん）・書道サークル・フラワーアレンジメントサークル・水彩画サークル・スローエアロビクスサークル・金継ぎ体験・紙しばいと絵本で手遊び・折り紙サークル・京都工芸大学ぼっけ・京都先端科学大学学生・花園大学学生・産業大学学生・光華女子大学学生・学生団体 JVO 他
- 5 予算： 2,107,500 円 / 決算：2,246,783 円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

地域で抱える問題も多様化していることからお互いを理解していく交流「多世代交流」できる事業を行いました。孤立しがちな環境で暮らす子育て世帯や高齢者、核家族化や地方から来ている大学生など、家族構成や問題は様々で、外部のコミュニケーションを取ることでお互いを支え合う活動に結びました。リタイヤした高齢者の知恵や大学生の新しい発想や行動力を生かした事業に、より安心して子育てできる環境づくりを展開します。そこで感じる高齢者への生きるための目的要素や個人では得られない多世代から得る情報によって双方にメリットを起こす取り組みを狙いにします。3つの対象者に分け取り組みを実施します。どの取り組みも団体と協働で活動し、始めようとする団体のスタートアップのサポートや活動団体の活動の励み、活性化に繋がります。

- ①「中京いきいき憩いの場」 乳幼児と保護者×高齢者 協力は子育てサークル・助産師によるみんなでヨガ・ひなぎくヨガ・ベビーマッサージ（きらきりりん）など。

内容は昔の懐かしい歌や手遊び・紙しばいや読み聞かせ・ヨガ体験・ベビーマッサージ
ブリザーブドフラワー体験・レコード鑑賞など。

- ②「中京ふれあい基地」 小・中学生×大学生 協力は・京都工芸大学ぼっけ・京都先端科学大学学生・花園大学学生・産業大学学生・光華女子大学学生・学生団体 JVO。

内容は科学体験や工作、体を動かすレクリエーション、料理体験、お祭りを模した季節のイベント・太鼓体験・金継ぎ体験など。

- ③「中京ふれあい喫茶」 高齢者×大学生 協力は・京都工芸大学ぼっけ・京都先端科学大学学生・花園大学学生・産業大学学生・光華女子大学学生・学生団体 JVO。

内容は麻雀やボードゲーム・カラオケ体験・スマホの触り方・健康体操・クイズで脳トレ・歌や音楽鑑賞・ものづくり体験・レコード鑑賞など

2 準備段階での工夫

- ・スタッフと協力団体が定期的に、会議をして、各年齢層が来て楽しめる内容や自然に打ち解ける向け方、学生が自然に入れるきっかけなど、それぞれに問題点を確認しながら事業に取り組みました。

- ・活動は写真と動画で、わかりやすくし、チラシ、HPやSNSに毎週、情報公開し、繋がりのある方からは、その情報を見て申込みや問い合わせがありました。また、興味のある方は繋がってもえたら詳しくわかりますと誘導し、そこから申込みされていました。
- ・大学生ボランティアは随時募集し、見学や体験も行い、年間で途中参加もありました。チラシ等は大学にお願いし、配布し、電子掲示板に載せて頂いたりしました。グループLINEをつくり、連絡や周知をやりとりしました。昨年に続き、スムーズにやり取りでき、学生の意見も取り入れ学生主体の企画も実施しました。事業の後は、大学生からも感想や思いを聞き、今後に繋げています。
- ・毎週あるので、外にはコルクボード、館内にはホワイトボードにスケジュールを示し、来場者にわかるように、予定表やチラシでわかるようにしていました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
 - ・多世代で関わる中でコミュニケーション力やふるまいの向上を図ります。地域の大人と一緒に子ども豊かな体験（人との関わりや伝統文化の行事体験など）を生み出し、活動することの価値に気づき、成長過程にある子どもたちにはとても大切な経験となり、地域で理解も深まり日常生活で欠けている部分を補うことを目標にします。
 - ・共働き家庭や少子化による兄弟の減少などの傾向のある小・中学生に必要なコミュニケーションと人の繋がりがもてる居場所づくりを目指します。大学生は次世代を担う人材の育成を目的とします。
 - ・高齢者の「孤立化」や「無縁化」、「貧困化」などが深刻化するなか、少しでも多くの高齢者が社会的なつながりを持ち、心豊かな生活を送れるよう支援することと、大学生に見られる、異世代間の交流が少なく、社会性や人間関係の乏しさなどの問題解決を目的とします。お互いの足りない部分が補われ、この取り組みでしか得られない機会となり交流の輪に繋がります。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1)の達成度について自己分析し、記載してください。
 - ・乳幼児と保護者の間に高齢の方の温かい見守りや声の掛け合いが、子ども達も自然になじめる雰囲気となり、保護者も安心して参加され、経験豊かな話を興味深く聞かれ、まさに多世代交流となりました。
 - ・事業に参加した大学生は学生主体の企画でグループに分かれ、それぞれ企画の立案、当日の運営まで行い、料理体験やものづくり、子ども達へ熱心さも伝わり、学生にとっても自信に繋がり、以前よりも主体的に行動するように見られ、スキルアップしていることを強く感じました。
 - ・大学生が主体となって進めることで、小・中学生と大学生の積極的なやり取りが増え、関係性を築きやすくなっていると考えます。センタースタッフともコミュニケーションの機会が増えたことから気軽に話せる関係性ができ、談笑や相談、報告などをフラットにできる環境を維持できています。大学生にとって、さらなる学びや地域との関わりにつなげてもらっています。

- ・どの取り組みも、市民活動団体が快く参加され、意欲をもって企画され、活発な動きが見られました。また、この事業をきっかけに活動を始めて団体は、その後、センター会議室を定期的に借りて活動されています。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
- ・様々な世代の方との交流で、それぞれの良さが入り交り、他では体験できない事業なので、協力団体・参加者・大学生、それぞれの意見を取り入れ、今後も企画します。また、新しく繋がる個人や団体も大切に、人が交流し合える仕組みを継続します。広報では、HP と SNS は継続しつつ、新しい手段で取り組めるよう検討します。
- ・この事業に参加や協働できたことをきっかけに、新しい活動やより良い活動へ繋がられるよう、新しい情報を取り入れ企画・運営していきます。

※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1 事業につき 1 ～ 2 枚程度としてください。

【事業名】市民活動応援事業（活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： ①9/19・10/17 18:00～20:00
②11/16 13:00～15:00 ・ 11/30 10:00～12:30
12/14 10:00～12:00 ・ 3/1 10:00～12:00
③3/21 18:00～20:00
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター 会議室
- 3 参加人数： ①17名 ②10名 ・ 13名 ・ 7名 ・ 19名, 9名 ③15名
- 4 協力団体等： 京都工芸繊維大学学生・水彩画サークル・ものづくりサークル・子育てサークル
・書道サークル・学生ボランティア
- 5 予算： 88,000 円 ／ 決算：117,635 円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

市民活動団体やこれから始めようとする人と、組織を構成し互いの活動を応援する事業を行いました。日常の不安や問題・成功例などを話しまとめ、そこから問題を解決できるワークショップやイベントを行いました。

①市民活動相談会として意見交換を行いました。

②意見交換から出た案やそれぞれ抱える問題の解決に繋げるイベントを企画、開催しました。

水彩画体験 ・ わくわく体験 ・ クリスマスフェス ・ 科学体験&ヘッドドレスづくり

③イベントで協働した団体同士で個々の活動の近況会を行い、双方の問題点や良いところを話し合いました。

2 準備段階での工夫

- ・①の相談会で、グループに分かれ、個々で自由に意見交換できるよう形式で進めました。お互いの問題を知ること、それぞれの活動を知る機会になりました。イベントに繋げるためにも双方の活動を知り、それぞれが意見を出し合い、協働で取り組める企画へ繋がられました。
- ・イベントでは、それぞれの得意分野を発揮できるよう企画、センターから助言しながら、進めました。
- ・ワークショップに参加される子育て世代の方が、子供を連れて参加できるように、サポートできる場所と子育てサークルの方にも協力頂き、サポートしました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
 - ・市民活動や個人の方で、身近な困りごとを話す機会を持つことで、他の人の考えを聞く機会ができ視野が広がり、活動や行動の問題解決につながります。
 - ・グループディスカッションすることで、それぞれの思いや考えを伝え、みんなの意見で企画に繋げることができます。
 - ・全く違う活動や環境の方の話を聞くことで、今まで気づかなかったことを発見し、見直す機会をもてます。
 - ・問題から企画に繋げ、それぞれが前向きな考えとなり、今後の活動意欲に繋がります。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1) の達成度について自己分析し、記載してください。
 - ・グループに分かれての交流会では、それぞれに困りごとを話し合い、問題解決に向け、自主的に意見を言い合えることができ、解決に向けた取り組みとして、イベントとワークショップを計画し実行できました。
 - ・このイベントにより、他団体が知っている補助金の話しや広報の方法、参加できるイベントなど知ることができました。
 - ・活動団体と他団体をマッチングさせることで、より良い活動にもなり、また活気づき、参加者が賑わうイベントを作ることができました。
 - ・参加団体の主体性を引き出すために、協働団体の得意分野を活かせるイベントに繋がりました。また企画・運営も団体に任せることで、活動意欲にも繋がられ、今後もイベント等行っていきたいとの声が聞けました。
 - ・様々な団体が自主性を持って交流し合え、センターとしてはサポート体制で取り組みました。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
 - ・グループディスカッションは重ねるごとに、意見も言いやすく、活発になるので、その形式で行い、センターは団体間のつなぎ役で努めていきます。
 - ・参加された団体とは良い意見交換ができ、協働で取り組める機会が持て、問題解決に向け前進できる事業となりました。
 - ・団体のサポートができ、参加された方も喜んでおられ、気持ちが前向きになれた感想が聞け、この取り組みは意味のある事業になり、今後も、内容を変え、市民に寄り添い、応援、サポートできる取り組みを企画していきます。
 - ・イベントを行う事で、学生が意欲を発揮していたので、今後も学生の成長に向けた取り組みは計画していきます。

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和6年度実績：2,884,800円（前年度比ー）

〔内訳 会議室等：2,884,800円
付属設備：〇〇〇,〇〇〇円 ※自主事業分を除く
スモールオフィス：〇〇〇,〇〇〇円〕

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和6年11月実施

【調査項目】窓口サービス

2 利用者満足度把握の結果

（1）全センター共通窓口サービス

項目①

たいへん満足 7.3%満足 86.5%不満 3.1%たいへん不満 0.0%無回答 3.1%アンケート回収数 100%

項目②

たいへん満足 18.8%満足 70.8%不満 6.3%たいへん不満 0.0%無回答 4.2%アンケート回収数 100%

項目③

たいへん満足 9.4%満足 82.3%不満 3.1%たいへん不満 0.0%無回答 5.2%アンケート回収数 100%

項目④

たいへん満足 9.4%満足 82.3%不満 4.2%たいへん不満 0.0%無回答 4.2%アンケート回収数 100%

項目⑤

たいへん満足 12.5%満足 79.2%不満 2.1%たいへん不満 0.0%無回答 6.3%アンケート回収数 100%

項目⑥

たいへん満足 6.3%満足 83.3%不満 4.2%たいへん不満 0.0%無回答 6.3%アンケート回収数 100%

項目⑦

たいへん満足 5.2%満足 86.5%不満 4.2%たいへん不満 3.1%無回答 1.0%アンケート回収数 100%

（2）センター独自アンケート

○結果の概要を可能な範囲で記載してください。（例：概ね満足 等）

- ・備品についてはすべて無料で貸出しを行っているが、とても満足していただき、アンケートを実施する事で利用者があったらいいなと思える備品の内容などを知ることが出来るため、少しずつではあるが備品の購入を増やしています。
- ・利用者の中に定期的に利用している団体で持ち物を置いて欲しい要望が数件あり、貸ロッカーの設置も検討すべきかと考えています。
- ・その他、挨拶や服装・清掃等については概ね満足との結果であります。

3 意見等への主な対応状況

○ 利用者からの意見で対応したものを記載してください。

- ・ SNS を利用されていない方から、事業やイベントの内容が分かりやすいように掲示等を行ってほしいとの意見があり、センター玄関すぐの掲示板へ今後のイベントのチラシを掲示する事で内容を知ってもらう事ができて、利用者にとっても分かりやすくなっています。
- ・ 建物が古い事で冬の暖房の効きが遅い事を改善するのに、電気暖房器具を購入し、無料貸出ししており、満足して頂いています。プロジェクター、スピーカー、ラジカセ、卓球台等無料貸し出しも喜んでいただいています。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

仮予約システムの導入は利用者にとって便利で有効なシステムで、広報や声掛け等の影響もあり、浸透しています。中京いきいき通信についても、当センターのスタッフが構成から行う事で、昨年度よりも細部まで情報や内容が伝わるようでき、利用者やセンターの紹介としてわかりやすく示すことができています。

・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

・ 事業やイベントを行う中で、より一層参加者や来場者の意見に耳を傾ける事で利用者が求めている思いを実現に近づけられると考え、今後も利用者への声掛けや、話しやすい環境づくりができるよう努めていきます。

・ 事業や取組みの中で、新しい団体や学校、市民団体と協働することで、発信の幅を広げていき、たくさんの方に利用価値を知ってもらえるよう努めていきます。

・ エレベーターは設置せれていない為、階段を利用できない方や団体については、利用できる会議室が制限されている状況が続いています。改善が早急に求められている中、設置が必要だと考えます。

・ 次年度に向けた対応について記載してください。

・ 施設運営を行う中で、日々スタッフ間での情報共有や、新しい事への取組みについて話し合う機会を増やし、運営だけではなく中京いきいき市民活動センターが進化し続けられるよう引き続き進めていきます。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○ 施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。

例）重大な事故やコンプライアンス違反等があった場合は、その概要、改善策等を記載

例）年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業があった場合は、その事業の名称及び内容、実施できなかった理由、中止した事業の取扱い（翌年度（令和6年度）に実施するのか、しないのか。）等を簡潔に記載

【締め切り】 4月30日（水）までに地域自治推進室へデータ1部＋紙1部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（17部又は18部）を提出

※ 収支決算書も4月30日（水）までに提出してください。

ほくの!

わたしの!

食べ物の絵

第1回キッズアワード京都

一般社団法人オーガニックフォーラムジャパン/オーガニックライフスタイル事務局

みんながいつも飲んでいる水、食べている野菜やくだもの
肉や魚はどこからどうやってやってくるか知ってるかな?
ふだんなんとなく食べているもの、着ているものなど...
最初のさいしょを考えて楽しみながら絵にしてみよう!



大学生のサポートあり!
調べ物をする為のタブレット
貸し出しもしていますよ!

- 日 時 2024年5月11日(土)と5月18日(土) 10:30~12:00
- 場 所 5/11は中京いきセンサロン・5/18は会議室4にて開催
- 対象者 3歳から12歳(小学6年生)までの子供達
- 持ち物 絵を描く為に使いたい物(絵の具、クレヨン、ペンなど)

※絵を描くB4サイズ画用紙はこちらでご用意致します

応募されたすべての作品を、6月28日(金)29日(土)「第1回オーガニックライフスタイルEXPOin京都」会期中、会場(みやこめっせ第2展示場)にて展示いたします。ぜひ会場にご来場のうえ、記念写真などで撮影ください。また、その後2024年6月29日(土)第1回オーガニックライフスタイルEXPOin京都会場内ステージにて表彰式を開催します。詳しくは下記公式サイトURLのQRコードをご確認下さいませ。沢山の子供達のご参加お待ちしております。

中京いきセンSNS (LINEからも申し込み可能です)

●お問合せ・お申込み先●

中京いきき市民活動センター
〒604-8434 京都府京都市中京区西ノ京新建町12-34
電話: 075-802-1301 FAX: 075-841-4601
メール: info@n-iki2.com



京都工芸繊維大学 ぽっけ 協力

七夕フェス

偏光板
万華鏡の作成



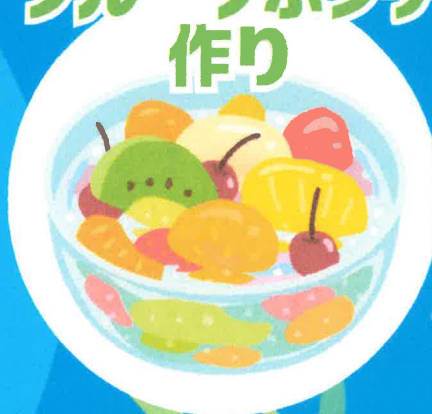
たのしく学べるよ!

プラネタリウム
体験



室内でためして
みよう!

オリジナル
フルーツポンチ
作り



あついに
ぴつたり!

日 時

7月7日(日)

10:30~12:00

参加費 200円

定 員 30名

場 所 中京いきいき
市民活動センター

【お申込み・お問い合わせ】※申込7月3日(水)まで

中京いきいき市民活動センター

〒604-8434 京都市中京区西ノ京新建町12-34

TEL: 075-802-1301 / FAX: 075-841-4601

Mail: info@n-iki2.com



秋の

わくわく たいけん

科学体験 & クッキング

参加費
500円

11/30(土)

10:00~12:30



10:00~10:50

インクを使わない！？

チタンで オリジナル しおりづくり



京都工芸繊維大学ぼっけさんと
楽しく科学を体験しよう！

電気の力でチタンを酸化させ色をつける方法で、
インクや絵の具を使わずにオリジナルデザインの
しおりを作ります♪

※デザインは各自オリジナルのものを作ります。
シールをご用意しているので小さいお子さんでも簡単に模様
をつけることができます。

10:50~12:30

ロールパンが変身！？

メロンパン づくり



市販のロールパンがメロンパンに！？
中京いきセンの大学生スタッフが、子どもたちに
楽しんでもらえる企画を考えてくれました♪

子どもも簡単にできるメロンパン作りです。
科学を体験したあとは楽しくクッキング！

定員20名
電話・メール・LINEにて、中京いきいき市民
活動センターまでお申込みください。

中京いきいき市民活動センター

☎ 075-802-1301
✉ info@n-iki2.com



Merry X'mas

クリスマス フェス

12.14 SAT

10:00-12:00

会場：中京いきいき市民活動センター
サロン

対象：小学生／定員 20名／参加費 100円

イベント内容

SDGs



10:00～11:00

『「エコ～るど京大」による 雑がみワークショップ』

様々な種類の紙（ティッシュの箱、お菓子の箱、和紙、トイレットペーパーの芯、レシートなど）に実際に触れて、資源としてリサイクルできるものかを知るワークショップです。紙をちぎったりこすったりして分けて、ごみ分別博士になろう！

【エコ～るど京大】とは？

京都大学の学生団体。ごみ分別などの環境問題に、中高生や地域の人も巻き込みながら学内外で取り組んでいます。

お菓子がもらえるよ♪

工 作

11:00～12:00

『大学生スタッフによる バックチャームづくり』

大学生スタッフが企画を考えてくれました♪
今年のクリスマスは、フェルトで自分だけのオリジナルバックチャームを作ってみませんか？

カラフルでふわふわのフェルトを使って、クリスマスツリーや雪だるまなどを作ります。いつも使うバックに付けたり、ツリーに飾ったりできます。世界にひとつだけのチャームを作り、手作りの喜びを感じながら、今年のクリスマスをさらに特別なものにしましょう♪

中京いきいき市民活動センター

☎ 075-802-1301
✉ info@n-iki2.com



たのしいがいっぱい



科学体験

&

ヘッドドレス作り

2.22(土) 10:00-12:00

1日で2つの体験ができる！

片方・両方
どちらでも
参加可能、
親子参加
OK！



オリジナルスノードーム
&オリジナルせっけん作り

10:00～11:00

定員：20名

参加費：無料

京都工芸繊維大学 ぽっけさん
と一緒に、科学の楽しさを発見
しよう！



ヘッドドレス作り

11:00～12:00

定員：20名

参加費：1,800円

入学式や卒業式などの特別な
日にピッタリ！手作りヘッド
ドレスで彩ろう！

※上記のイベントは5名以上のご参加で
開催いたします。

※申込み締め切りは、2/15です。

中京いきいき市民活動センター

☎ 075-802-1301
✉ info@n-iki2.com

